

らしい表現をして驚かされもし、こちらも面白く遊んでしまふ遊びである。

### (三) 繪の切り抜き

繪による觀察は觀察の邪道であらうけれど又これには理屈をつけることで雨の日にこんなこともよいか思つてしてみた。よい繪を、成可く漠然とでなく、動物さか、車さか、船さかといふ様にはつてみんなにみせ、(それが許されるなら切抜いてもいゝけれど)見て繪にかいてそれを切り、ハトロン紙か、包紙なごを利用してみんなのをまきめて繪本にする。動物繪本、乗物づくしといふやうに。

## 遊 戲

雨の日の遊戯といつても、ピアノに合はせて行ふ所謂遊戯は、特別に變つたものをするこゝもないし、やはりいつもしてゐるものをする様になると思ふ。たゞ主題が雨に關するものは特にこゝいふ日にしてゐるものであらう。雨の日は兎角幼兒の運動量が少いといふところからそのありあまる力の持つて行き場に困る、そこで遊戯も成可く運動量の多いものがぞましい。又思ひきり力を出させるこゝの

その他雨の日には兎角おへやがこもり勝ちであるから一度はよく窓をあけて、外を眺める事もし度い。お天氣に氣をつけてその日のお天氣を色で表して毎日はりつけてこの週は晴が何日、雨が何日といふ様に氣をつけるこゝもし度いこゝである。この頃よく咲く花しようぶに赤インクを吸はせてみるのも面白いであらうし、きぬ絲草を水盤に蒔いて楽しむのも五月雨のころがふさはしい氣がする。又幼稚園に物理を持たむのも如何かと思はれるが先生が手品をして簡單な不思議をしてみせるのも楽しい一時が過せる面白いこゝであらう。

## 小 島 そ の

出来る競技的遊戯を是非もしたいと思ふ。幼稚園によつては遊戯室は無くて小學校の體操場を用ひてゐるこゝもあるし、又遊戯室はあつても雨の日はその廣い部屋を一組で獨占するといふこゝも出来ないと思ふので、特に遊戯室でなくとも普通の保育室で充分に面白く遊べるといふ遊戯を、日頃幼兒さしよに工夫してみたものゝ中から二つ三つを次に記してみる。

### うづまきようせう

準備 床の上に白墨でうづまきを二つ左右にならべてかいておく。大きさは部屋の空地によつて適當にし、線と線との間はあまり廣くない方が遊びに興味がある。二つのうづまきから少しはなれたところにスタートの線を引いておく。

方法 うづまきの上を線を決してふまぬ様に進んで中心まで行き又元に戻つて来る。早く出来た方が勝なのだ。これは二人づつで行つても面白いが、全體の幼兒を紅白の二組に分けて、リレーの様に行ふと實に面白いものである。途中で線をふむだ場合は又戻つて出直すのである。

### おしだしすもう

準備 床の上に直径五十糎位の圓形を二つ相對してかく、圓と圓との距離は五十糎位にする。

方法 たゞ押し出すだけのこゝで相撲の遊びをしてみる。ボールドに番付をかい、力士を東西に分けて席につかせる。呼出しや行司の役をきめて所定の位置につかせる。一人づつ呼出し、二人が各々の圓形の内に入り兩手を前にのぼしお互に兩手をつき合はせて相手を圓の外に押し出すのである。勝負があつたら行司は軍配を上げ、勝つた者の名前の下には白いまるをつける。

### 水泳ごっこ

準備 床の上に適當な長さのごさを二枚、少しはなして並べて敷く。

方法 ごさの一方の端をスタートとして、二人並んで出發の合圖と共に泳ぎ出す、腹ばひになり泳ぐ様子をして這つて行くのである。一方の端に著いたならターンして又元に戻つて来る。早い方が勝なのだ。これも紅白に分れてするご大そう面白い。ごさのない時は、床をきれいに拭いて、一定の幅に線を引いて行つてもよい。この様な一寸したこゝでも、子供のよるこび方、熱中ぶりは大したものである。

### うさぎとかめ

準備 全生を同人數に二つに分けて、兎組、龜組、ミしてそれぞれ一列圓形に手をさつて並ばせる。一人一人の立つてゐる位置には、兩足の入るだけに小さいまるをかきならべるミ一層はつきりしてよい。

方法 出發の合圖と共に、兎組の先頭も龜組の先頭も全速力で走り出す、しかし兎は兩足をそろへてミび、龜は手をついて四つ這ひに這ふのである、そして各々圓周を一周まはりして自分の位置に戻るさ共に次の者が出る。こうして圓周上にゐる全部のものがこれを早く行つた方の組が勝つのである。一回終つたら次は兎組は龜になり龜組

は兎になつてさうかへて行ふよ。

最後に雨に關した遊戲をして、昨年夏の講習に戸倉ハル先生の御發表になつた幼稚園新唱歌の中の「雨」を一寸思ひおこしてみる。

### アメ

#### 準備 一列圓形

一 アメガアメガフツテキル

キイテゴランヨオトガスル

右手上に上げ、下におろすと同時に左手を上へ上げ、下におろすと同時に右手を上へ上げる、これをくりかへし行ひ、雨が降つてゐる様をあらはす。各々八回づつ合計十六回行ふ。

ピチピチバシャバシャオトガスル

五指をひろげ、やゝ掌をそらせて、ピチピチバシャバシャと拍手しながら自分のまはりをまはる（八回手をうち八歩あるいて一回轉するわけである。）

### ホラ

両手を上にあげる、體をすつこ上にのぼす心持で（位置は動かす圓心をむいたまゝ。）

ヤツデニ

両手を下におろす。

フツテ 廿(ル)

ホラの動作と同じ。

(キ)ル

ヤツデニと同じ。

ハレタラ

両手五指を開き胸の高さに持つて来て、キラキラと掌を動かす（左右手首から上をまはす。）

ハツバガ

両手を急いで下におろす。

ヒカルダ(ロ)

ハレタラと同じ動作。

(ダ)ロ

ハツバガと同じ。

二 アメガアメガフツテキル

キイテゴランヨオトガスル

一番と同じ。

ポツポツポツポツオトガスル

五指全部を第二關節より曲げて（即ち極かるく手を握るわけである）掌のまはりで拍手しながら（ポツポツといふ音が出る）自分のまはりをまはる。

ホラオイケニフツテキル

一番のホラヤツデニフツテキルと同じ。

キンギヨハドウシテキルカシラ

## 談話唱歌

### 舌切雀

手を左右に上げ圓心に向つて靜かに進んで行く、進むと共に自然に隣同志肩に手をかけ合はせる事になる。金魚は

空想家、夢想家である。こどもたちは、お話をきくことが大好きである。お話をきいてゐる時の眼、普段と變つたその顔は、全くお話の世界に入りきつてゐるからなのである。

お伽の國へ心をはしらせるばかりでなく、こどものすべてを、そのあたりの空氣をつくりそのまゝお伽の國へ移すといふことはどんなにか楽しいことであらう。

劇あそびといはうか、對話劇といはうか、その種類の遊びは非常に喜ばれる。しかし又、いはゆるせりふを言ひ、しぐさをする事は相當に難しいので、歌に合はせてお芝居をする唱歌劇の方が小さいこどもにはやりよいのではないであらうかと思はれる。そこで、おはなしの筋のまゝの唱歌、即ち談話唱歌（及川先生がおつけ下さつたもの）といふものを作つてみたのである。

### 町田行子

次にかいたものは、本當に出来上つてゐないものである。舌切雀のおはなしを幾つかの部分に區切つて、うたへる程度に構成してみたものである。全體を唱歌としてうたつてもよいし、劇として取扱つてもよいと思ふ。

お爺さんは山へ柴刈りに、お婆さんは川へ洗濯に出掛けた留守に子すゞめがのりをなめてしまつた、お婆さんがそれを怒つて子すゞめの舌をきる、そこまでを序詞として説明的にみんなであうたふ。

舌をきられた子すゞめが痛い／＼とさなきながら家へ喜んで歸る、お爺さんが雀のお宿をたづねて行く、子すゞめ達がお迎へに出て招じ入れる、これを對話的に運ぶ。

次におもてなしの雀おざりは、男兒にうたはせて、女兒に遊戯をさせてもよい。

楽しく遊んでから、お爺さんが小さいつづらをおみやげにいたゞいて家へ歸るまでは、お爺さん子すゞめ達がかは